

# 「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード⑤)



## 日本なし栽培

千葉県農林水産部

### 1 認証基準

日本なし栽培の認証基準は、化学合成農薬の使用成分回数が26回以下、化学肥料使用量(窒素成分量)が10kg/10a(清耕栽培)及び13kg/10a(草生栽培)以下です。

また、堆肥の施用は、1,500kg/10aが目安量とされています。(表1)

ちばエコの「豊水」▶



表1 ちばエコ農産物認証基準における農薬の上限回数と窒素成分の上限量  
(日本なし栽培)

(平成17年3月現在)

区 分	上 限 量		堆肥施用の目安量 (kg/10a)
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	
清耕栽培	26	10	1,500
草生栽培	26	13	1,500

### 2 認証基準達成のポイントと考え方

#### 1 病虫害防除

ちばエコ農産物の認証基準に適合した薬剤防除例を表2に示します。農薬散布回数を削減しつつ重要な病虫害の防除を図るためには、問題となる病虫害の特徴を把握した上で、ほ場における病虫害の観察を的確に行い、薬剤散布時期の判断や、場合によっては散布延期などの判断をすることが重要です。

## A. ほ場の立地条件と周辺環境の整備

### ●地域内にある未管理ほ場を確認し、対応します。

耕作放棄などにより防除が実施されていないほ場は、病害虫の発生源になるので、組合単位で薬剤散布や伐採処理などの対応を行います。



▲害虫発生予察用の性フェロモントラップ

### ●ほ場周辺にある樹種を確認し、対応します。

シンクイムシ類やハマキムシ類の食樹であるバラ科果樹やイヌマキ、赤星病の中間寄主となるカイヅカイブキなどが景観樹や庭木などとして庭先に植栽されている例があります。病害虫の発生をチェックし、所有者の許可を得て当該樹の防除等を行います。

## B. ほ場の観察ポイント

### ●落葉期及び休眠期

落ちた葉、枝や樹幹部を観察し、病斑、卵塊、越冬繭、越冬成虫や死骸、芽基部の食入痕、排糞、木屑、病斑を探します。

### ●開花期

芽基部病斑（黒星病）、花の食害（甲虫類）の有無を観察します。

### ●展葉期

新芽・新梢の褐変・枯死（黒星病、疫病）、葉・葉柄の黒斑・赤斑（黒星病、赤星病）、葉の食害（シャクガ類、ハマキガ類、シンクイムシ類）・吸汁害（アブラムシ類）、幼果の食害（ハマキムシ類）の有無を観察します。

### ●摘果期

病害虫の発生、幼果の吸汁害（果樹カメムシ類）、徒長枝先端の葉の萎凋（ニセナシサビダニ）の有無を観察します。

### ●梅雨明け頃

葉の萎凋（ハダニ類）、果実・果柄の黒斑（黒星病）の有無を観察します。

### ●収穫期

病害虫の発生、果実食害・吸汁害（シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類、ヤガ類）、果実斑紋（黒星病、輪紋病）の有無を観察します。

## C. 的確な防除の実施

### ●落葉期～休眠期の防除

黒星病等の病害や越冬害虫の防除のため、落葉を集め園外に持ち出して埋没処分等を行います。また、休眠期には、害虫付着枝・病芽の剪除と処分、粗皮はぎ、使用済誘引紐の回収と処分を行うとともに、3月上旬に非化学合成農薬のマシン油乳剤を散布し、樹上で越冬しているカイガラムシ類やハダニ類等を防除します。

## ●開花期～収穫期の防除

病害虫の発生が少なく被害程度が小さいときには、被害枝葉の剪除や害虫の圧殺を行います。

薬剤散布を行う場合は、病害虫の登録薬剤の中で化学合成成分数の少ない農薬を活用します。さらに、ナシヒメシンクイ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ、モモシンクイガに有効なコンフューザーNなどの交信かく乱剤を併用することで、春先から収穫期までのシンクイムシ類・ハマキムシ類防除薬剤の削減を図ります。また、できるだけ選択性の高い薬剤を使用し、土着天敵の温存を図ります。

黒星病については、第一次伝染源の感染を防ぐため、開花期の前後2回、効果の高いDMI剤による防除を行います。

輪紋病については、病原菌の飛散が多くなる6月下旬から7月中旬にかけて、効果の高いストロビルリン系剤（年間2回以内）を用います。病害防除薬剤の散布時期は、各殺菌剤の推定される残効期間に基づき散布間隔を検討し、さらに週間天気予報により降雨の予想される前日に散布するよう計画します。



▲ コンフューザーNの設置と「幸水」の結実状況

表2 日本なし栽培のちばエコ農産物認証基準に適合した農薬防除例

月	旬	時期	農薬名	希釈倍数	対象病害虫	備考
11月	上旬	落葉期	デランフロアブル	1,000倍	黒星病	
3月	上旬		※マシン油乳剤	30倍	カイガラムシ類、ハダニ類	
4月	上旬	開花直前	マネージDF	6,000倍	黒星病	
			デランフロアブル	1,000倍	赤星病	
	下旬	受粉終了後	スコア水和剤10	4,000倍	黒星病、赤星病	
			パルノックスフロアブル	500倍	黒星病、赤星病	
			バリアード顆粒水和剤	2,000倍	シンクイムシ類	
5月	上旬		(アリエッティ水和剤)	800倍	(疫病)	発生が心配される場合に散布する
			※コンフューザーN	100本/10a	シンクイムシ類、ハマキムシ類	
	中旬		ベルコートフロアブル	1,500倍	黒星病	
			(オリオン水和剤40)	1,000倍	(シンクイムシ類、ハマキムシ類)	交信かく乱剤導入初期、及び多発地で散布する
	下旬	摘果期	ベルコートフロアブル	1,500倍	黒星病	
			モスピラン水溶剤	2,000倍	アブラムシ類	ユキヤナギアブラムシの寄生果叢が20%以上、または寄生頭数が6頭/1葉になったら散布する
6月	中旬		ストロビードライフフロアブル	2,000倍	黒星病、輪紋病	
			オーソサイド水和剤80	1,000倍	輪紋病、黒星病	
			ダーズバン水和剤25	1,000倍	アブラムシ類	
7月	上旬	新梢発育停止期	(アンビルフロアブル)	1,000倍	(黒星病)	黒星病の発生が心配される場合に散布する
			ベルコートフロアブル	1,500倍	黒星病、輪紋病	
			※コンフューザーN	100本/10a	シンクイムシ類、ハマキムシ類	
中旬			アミスター10フロアブル	1,000倍	黒星病	
			トップジンM水和剤	1,000倍	輪紋病	
			ラービン水和剤75	1,000倍	シンクイムシ類	
8月	中旬	収穫期	ロディ水和剤	1,000倍	シンクイムシ類	小規模ほ場、集積ほ場の周辺部には使用する
カウント農薬数			17～20			

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

( )は臨機防除。

## 2 施肥

ちばエコ農産物認証基準に適合した施用例を表3に示します。

日本なし栽培には、主として有機質肥料や家畜糞堆肥、樹皮堆肥などが使用され、実質的にちばエコ農産物の認証基準を達成している農家も多くあります。化学合成由来の窒素は、なし専用肥料では少ないものの、他の肥料には多いものもあるため、JAまたは肥料販売業者に問い合わせ、窒素分量を把握しておく必要があります。

表3 日本なし・草生栽培のちばエコ農産物認証基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量 (%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量 (kg/10a)		
		窒素	リン酸	加里		窒素	リン酸	加里
堆肥	樹皮堆肥				1,500			
	芝草堆肥				2,000			
	剪定枝焼却炭				500			
基肥	ありのみ配合	7(1)	7	1	11	0.8(0.1)	0.8	0.1
	なし専用有機	7(2)	7	0	8	0.6(0.2)	0.6	0
	サンライト	15(6)	15	15	6	0.9(0.4)	0.9	0.9
	カニ殻	3	4	0	109	3.3	4.4	
	魚粉	7	6	0	40	2.8	2.4	
	骨粉	7	21	0	90	3.6	18.9	
	なたね油カス	5	2	1	55	2.8	1.1	0.6
	総施用量					14.8(0.7)	29.1	1.6

注) ( )内は、総窒素のうち、化成肥料由来の窒素成分。

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬使用は、平成16年度現地実証試験時点のものです。実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

- 著 作 千葉県農林水産部農業改良課  
千葉県農業総合研究センター
- 編集・発行 千葉県農林水産部生産振興課
- 発行年月 平成17年12月
- 内容についての問い合わせ先  
千葉県農業総合研究センター TEL.043 (291) 9989  
または各地域の農林振興センター